



「Global Communication Workshop 2016」に参加して

この6月、東京医科歯科大学の「高大接続プログラム」に4名の生徒が参加しました。医科歯科大学の学生とともに、英語で意見交換をするというプログラムです。事前に下記のような英文の資料などを読んで学習しておく必要があります。

アフリカでのポリオの問題がテーマでした。参加した生徒の感想を掲載しておきます。

Introduction

Poliomyelitis (Polio), a highly infectious viral disease, had been a health problem in many African countries until the World Health Assembly approved a vaccination plan for eradicating polio with the help of the Global Polio Eradication Initiative (GPEI) in 1989. By 2003, the number of polio cases in Africa had fallen, but there were still concerns about Nigeria, which accounted for 45% of polio cases worldwide and 80% of the cases in Africa.

This concern recently rose to a new high when Kano State Government and local community organization leaders in a northern section of Nigeria, expressed their distrust of the vaccine campaign, which is organized and funded by international aid agencies. The Kano State Government and these leaders decided to ban the GPEI sponsored polio immunizations, and asked parents in their communities to refuse them. Rumors claiming the vaccine was contaminated with anti-fertility drugs, HIV, and cancerous agents began to circulate in the area.

Due to this suspension of the vaccination campaign in northern Nigeria, a global outbreak of polio occurred immediately, spreading into twenty countries across Africa, the Middle East, and Southeast Asia. This resulted in a rapid and significant increase in the number of polio cases in the region.

Understanding the complexity of this crisis, the World Health Organization (WHO) has decided to set up a meeting with political leaders in Nigeria and other stakeholders involved in the polio eradication project for this area.

高校2年生 西崎 隼隆

今回僕はGCWというディベート会に参加してきました。医科歯科大学で開催されたディベートということもあって、テーマは「ナイジェリアで起こったナイジェリア北部のカノ州のポリオワクチンのボイコット」です。各大使はそれぞれ国際機関やナイジェリア政府、カノ州の代表者などに分かれて、代表者ごとに集まって作戦会議をしながら、各代表者が一人ずついる小グループでどのような政治的なアクションを取るか決めるというものでした。

しかしこのテーマにはポリオワクチン自体が効果的かどうかなどの医学的なことから、ポリオの感染拡大を防ぎたい国際機関と、ボイコットをやめることを条件にナイジェリア政府や国際機関に資金を出してほしいカノ州や、その両方に挟まれているナイジェリア政府などの超政治的な問題がふくまれています。この問題と取り組むにはポリオのワクチンに関する知識だけでなく、国際関係に関する知識とともに、それを英語で表現できるだけの英語力、それと交

渉におけるネゴシエーション能力が求められました。

正直このテーマを聞いた時に「文系の僕では医学系のことなどさっぱりできちんとテーマを理解できるか不安でした。しかしこのディベート講習会では各代表者に必要とされる専門的な知識は事前に配られ、参加者はそれらの知識をどう英語で表現すればいいのか、またどのように交渉するのかなどに集中することができ、より濃い議論ができました。また、ディベートとディベートの間には全員が広めの教室に集められ、ディベートのコツなどを教わりました。とても実践的なことが多かったので今後のためにもすごくいい勉強になりました。僕も知識はとぼしいながらもアグレッシブに発言して、自分なりに頑張れたと思います。とてもいい経験になりました！

高校2年生 白石耕太郎

英語を自分の頭を使ってタフに運用するのは久しぶりだった。聞くことに関しては全く問題はなかった。一方、話すことについては満足のいく出来ではなかった。思考のベースを英語に切り替えることは上手くいったが、頭の中にある(?)表現のストックへのアクセスが悪かった。「英語のニュースを読み、それについて直ちに自分の考えを述べる」というような訓練の必要性を感じた。

プログラムの内容について。実際にナイジェリアで起こったポリオワクチン接種のボイコット問題を解決するための利害関係者の交渉をシミュレートするというものだった。各人が担当する役割は、当日の会場到着後に班分けと一緒に発表された(人数が多く、全員で一つの模擬交渉を行うのは困難であるため、基本的に一人一つの役割を担当するように交渉の班分けがなされていた)。WHO、国境なき医師団、アメリカ疾病予防管理センター、ナイジェリア保健省、カノ州政府、カノ州地元住民組織の6つの役割が設定されており一班6人が交渉のテーブルに着いた(内一人は海外からの留学生)。各役割に交渉での最高・最低達成目標が設定されており進行の目安となっていた。自分はカノ州地元住民組織を担当した。最終的にはワクチン接種再開を呑むことを前提に、植民地時代に米国製薬会社の新薬の実験の場とされた歴史やナイジェリア国内の政治・宗教的対立を背景とする西洋医学への不信を強調しつつ、1)医療インフラの整備、2)ワクチン接種再開は段階的にし、公衆衛生の増進を優先する、3)住民への今後の方針を説明を友好的に行うなどの譲歩を引き出した。当然だが、相手の発言を遮って積極的に自分の利害を主張していく姿勢が必要だった。

最後に、模擬交渉で同じ班に割り当てられた留学生や、アシスタントをしてくれたネイティブスタッフとの会話は楽しく有意義なものだった。普段は歳が近い同性の仲間と1日の大部分を過ごす我々にとって「学校の外に出る」ことは大きな意味をもち、多くのものをもたらしてくれるということを実感した。休憩時間にはTMDUの学生から大学生活についても少し話を聞くことができた。このような貴重な体験をさせてくれたプログラムに関わってくださった人々に感謝したい。

プログラミング

先日開催した「Make School」のプログラミング講習会には、中学1年生から高校3年生まで47名の生徒が参加しました。すべて英語での講演でしたが、生徒諸君はとても刺激的な時間を体験したようです。

今回実施したプログラミングとは別の講習会の案内が来ています。東京大学の森川教授による「Programming & Making 講座」です。

他に、ビジネスアイデアコンテスト「キャリア甲子園2016」の案内も来ています。興味ある生徒は是非参加してみたいかがでしょうか。詳細は裏面参照。

Road to Silicon Valley



ISA ICT 講座 (Programming & Making) のご案内

次世代を担う高校生に向けて

これからの社会で中心的な役割を担う人材にとって、IT/ICTリテラシーは必須の要件となりました。こうした環境の下、株式会社アイエスエイは、グローバル社会で活躍する人材育成支援の一環として、東京大学先端技術研究センター森川研究室の監修、指導による「プロ・メーカー講座」(Programming & Making 講座)を開講します。

今回の講座は、プログラミングを学習しながら自分でプログラムを書き、自らのアイデアをそのプログラムで動かし形にする「Programming & Making 講座」を核に、東京大学森川教授による講義「IT/ICTが未来を創る」と最先端のICT(人工知能、IOTの開発手法、FinTech等)の動向やITの基礎(情報量とは?、インターネットのしくみ、セキュリティ等)を学ぶ「ITシャワー」を組み合わせたこれまでに例のない企画です。

プログラマーを目指す高校生のみならず、次代を担う全ての高校生を対象に開講し、IT/ICTリテラシーを深めて頂きます。

<募集概要>

- 1) 人数: 20名(高校生)
- 2) 日時: 8月22日(月)~26日(金) 5日間
- 3) 時間: 9:30~17:30(5日間とも)
- 4) 場所: 株式会社アイエスエイ本社会議室
(東京都港区港南1-6-41 品川クリスタルスクエア10F)
- 5) 参加費: 5,000円(資材実費として)
- 6) 持ち物: ①LAPTOP PC(タブレット不可)
②期間中の昼食

備考)・LAPTOP PCをお持ちでない方は、申込み受付後、事務局までお知らせ下さい。事務局にて貸与(有償)します。
・移動交通費は全て参加者個人負担となります。



東京大学
森川教授

参加者は1チーム5名からなるチームに分かれ、アイデアと成果を競います(ハッカソン)。プロ・メーカー講座では、森川研究室のスタッフが直接参加者を指導します。

君たちが社会に出る2023年、 世界は今と違う姿をしている。

今年で3回目を迎える高校生のビジネスアイデアコンテスト、キャリア甲子園2016。最大4人1組でチームを組み、**企業から出されるテーマに挑戦しよう。**BBT大学の講師がビジネスの基礎を教えてくれる講座がエントリー者には**無料**で受けられる！
決勝大会の舞台は聖地六本木ニコファーレ！
ニコニコ公放生放送決定！
優勝チームには北米旅行ツアー！
さあ、君の挑戦を、世界が待っている！！



内容についてはホームページ等で確認して下さい。
応募希望者は7月9日(土)までにグローバル教育部に来て下さい。

応募希望者は7月2日(土)までにグローバル教育部に応募用紙を取りに来て下さい。但し、締め切りになっている可能性もあります。